

ヒトの体の学習

ヒトの体の内部の学習は興味ある。

特に、中学2年の消化の学習は身近で重要な内容だ。

我々は医師免許を持っていないため、体の内部に管を差したり、切開することはできない。

授業でも、口の中の物質の変化は実験が可能で行うことができるが、それ以外は行っていない。

かつてから何かできないか考えてきたが、良案は見つかっていないのが現実である。

しかし、これは仕方ないことなのではないだろうか。

観察・実験を可能な限り取り入れることは重要であり、大切なことだが、どうしても実現が難しいものもある。限られた授業時間のやりくりも関わってくる。

こんなときこそ、モデル実験や思考、資料集や視聴覚機器による情報提示を活用すればいいのではないだろうか。

さて、若干話はそれるが、消化管に関したことを話そう。

①バリウム

20歳代の教員になったころの職場の検診でのことである。30歳？を越えたらバリウムによる胃透視検査を受診することになっていた。私は対象外だったが、「理科の授業に生かしたい」とお世話係の養護教諭に受診をお願いした。養護教諭は「誰もしたがらない検査なのに物好きね」と笑われながら受診を許可してくれた。かつて父親からバリウム検査のことを聞いていたが、今のようにバリウム自体が多量でおいしくなかったので大変でした。

しかし、次の日の朝、肛門から白いものが出てきたときは、「消化管が続いているんだ！」という当たり前の新鮮な感動を覚えた。写真は撮れないが、生徒には健康教育とともに自信を持って消化管の話ができるようになった。

②胃カメラ

41歳のとき、人間ドックを受け、初めて胃カメラ撮影を行った。特に体調は悪くなかったので、いつもバリウム検査を受けていた。この時は年齢指定の人間ドックだったので、健康のため半分、理科の教材づくり半分でチャレンジした。医師に授業で使いたいので写真をもらえないか頼んだら、「あげますよ」ということで写真を頂き、掲示物にして理科室に掲示した。

予想していた以上にきれいで感激した。生徒も関心を持って見ていたのが印象的であった。

③S状結腸ファイバースコープ検査（大腸カメラ検査）

今年の夏休みに50歳年齢指定の人間ドックを受診した。40歳は胃カメラだったので、今回は大腸カメラに挑戦した。近所の行きつけ医師にも「そろそろ大腸カメラで検査しておいてもいいかもね」といわれていたもので、気分は進まなかったが挑戦した。インターネット等で情報収集すると、それほど苦痛でも無さそうなので安心した。実際受診すると、情報通り思ったよりも苦痛が無く良かった。しかし、カメラが入りやすいように多くの空気を腸内に入れたので、便意（空気しか出ない）とおならが続いたのが気になった。検査後すぐに写真を見せていただき、便が通る場所というイメージと違い大変きれいであった。感激した。

今回は授業で使うことは無いので、写真をもらわずに帰って来た。

現在では、画像等が得やすい時代になったので、生徒に情報提示がしやすくなったが、自分の実体験は、自信を持って生徒に話すことができた。しかし、ヒトの体の内部は美しかった。感激した。